



今年3月中旬の子どもの卒業式には桜が咲いていて驚くと同時に、温暖化が進んでいると改めて感じる。

さて、年度末ということもあり事業計画づくりがそれぞれ進んでいるところだと思うが、現在SDGsの推進を図るべく、ワークショップを各地で展開している。労協連では昨年より「協同労働×SDGs推進本部」を設置し、協同労働法制化とも結びつけ、すべての戦略を「持続可能な社会(地域)づくり」とし、そのメッセージを強力に発信し、同時に実践し、日本の協同組合・非営利セクターにおけるSDGs推進のリーダーシップを発揮しようとしている。

今年3月の連合会理事会で労協連としての宣誓内容を確認し、現在ICAホームページを通じて発信を進めている。またこの間学習会を123集会やよい仕事集会などで古村理事長が実施したり、はんしんワーカーズやセンター宇都宮地域福祉事業所の協力を得て、素敵なポスターやロゴを作製し配布するなど、意識してもらうことから始めている。

そのような中、先述のように「協同労働×SDGs×事業計画」と題し、昨年全国代表者会議2日目で実施したワークショップを改良し、半日のプログラムとしてセンター中四国事業本部及び神奈川事業本部で実施。各事業所が持ち寄る事

業計画を基に、現在取り組んでいる事業や社会連帯活動を、4つに分けた一番左の欄に記載。その次の欄に、その事業や社会連帯に携わっている人たちをどのような経過でどのような役割で関わっているかなどを記載。ここまでが棚卸し作業となり、そのうえで今度は右側の欄に、その事業・活動を通じて携わる人たちとどのような課題を改善し、どのような価値を生み出しているのかを考える。最後に一番右の欄に、その価値はSDGsの17目標のどれに合致しているのか紐付ける作業をやる。

ワークショップでは3～5事業所1グループとなり、事業所の事業や繋がりを説明したり価値を評価し合うことは、自分たちの取り組む活動を理解してもらったり、生み出している価値を新たに見出してもらったり、またSDGsと紐付けることで世界的な指標に取り組めていることの自己肯定感を得ることに繋がる。さらには取り組めていない課題が明確になったり、取り組みたい活動の意欲を引き出すことにも繋がるなど、参加者から好評を得ている。

今後もこのようなワークショップの取り組みを広げ、SDGsを身近に感じてもらうたり、地域への発信のツールとしながら、持続可能な地域づくりに繋げていきたい。